

ドイツ語（初級 A） 第 2 回 アルファベット、綴りと発音（、発音記号）

範囲：教科書扉、S.6-7

I アルファベット

■ アルファベット （教科書扉）

◇ アルファベット（アルファベット）に関しては、ほぼ英語と同じ。ただし、英語と名称が異なるので、そちらを覚えてほしい。今後の授業では、なるべくドイツ語読みを採用する。

* 発音記号については本配付資料 S.7-8 のまとめを参照。便宜上、片仮名読みを付けた。細字部分は子音のみと考えてほしい。

大文字	小文字	発音記号	名称を発音するときの参考
A	a	[aː]	「アー」でよい。
B	b	[beː]	「ベー」でよい。
C	c	[tseː]	「ツェー」でよい。
D	d	[deː]	「デー」でよい。
E	e	[eː]	「エー」に近いが、口の開きを狭くする。英語の A との混同に注意。
F	f	[ɛf]	「エフ」に近いが、「エ」は口の開きを大きくする。
G	g	[geː]	「ゲー」でよい。
H	h	[haː]	「ハー」でよい。
I	i	[iː]	「イー」でよい。英語の E との混同に注意。
J	j	[jɔt]	「ヨット」に近い。
K	k	[kaː]	「カー」でよい。
L	l	[ɛl]	「エル」に近いが、「エ」は口の開きを大きくする。
M	m	[ɛm]	「エム」に近いが、「エ」は口の開きを大きくする。
N	n	[ɛn]	「エン」に近いが、「エ」は口の開きを大きくする。
O	o	[oː]	「オー」でよい。
P	p	[peː]	「ペー」でよい。
Q	q	[kuː]	「クー」でよい。
R	r	[ɛr]	「エア」に近い。
S	s	[ɛs]	「エス」に近いが、「エ」は口の開きを大きくする。
T	t	[teː]	「テー」でよい。
U	u	[uː]	「ウー」に近いが、「ウ」は口をすぼめる。
V	v	[fau]	「ファウ」でよい。
W	w	[veː]	「ヴェー」でよい。
X	x	[iks]	「イクス」でよい。
Y	y	[ypsilon]	「ユプスイロン」でよい。英語の Y と完全に異なるので注意。
Z	z	[tsɛt]	「ツェット」でよい。

《ドイツ語の特殊文字》

母音の上の点々 = ウムラウト (Umlaut) → Ä/ä, Ö/ö, Ü/ü

ß = エスツェット (Eszett)

◇ 英語にはないドイツ語の特殊文字としては、以下の 4 つがある。

大文字	小文字	発音記号	名称を発音するときの参考
Ä	ä		「アー・ウムラウト」でよい。
Ö	ö		「オー・ウムラウト」でよい。
Ü	ü		「ウー・ウムラウト」でよい。
-	ß	[ɛstɛt]	「エスツェット」でよい。

* 教科書にはウムラウト付き文字の名称としてそれぞれ[e:], [ø:], 「y:」が記載されているが、あまり使われない。

** ß は sz のことで、ギリシア文字の β とは関係なく、音価も[s]である。

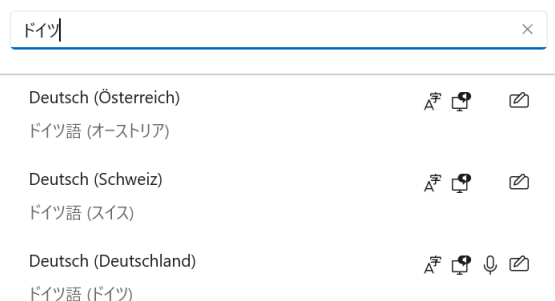
■ ドイツ語の特殊文字を端末でタイプする方法

◇ 各種の端末（パソコン、スマートフォン）でドイツ語の文字を打鍵する方法も紹介しておく。

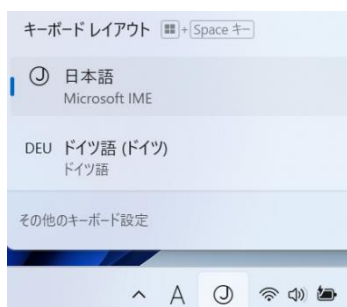
◇ パソコンの場合は、

- ・ OS によって方法が異なる。Windows 11 を例として説明すると、スタートボタンから、
 - 「設定」→「時刻と言語」→「言語と地域」→「言語の追加」の順にクリックすると、
 - 「インストールする言語を選択してください」画面が現れる。ここで「ドイツ語（ドイツ）」を選択し、「次へ」をクリック（下記のように検索ボックスを使ってもよい）。

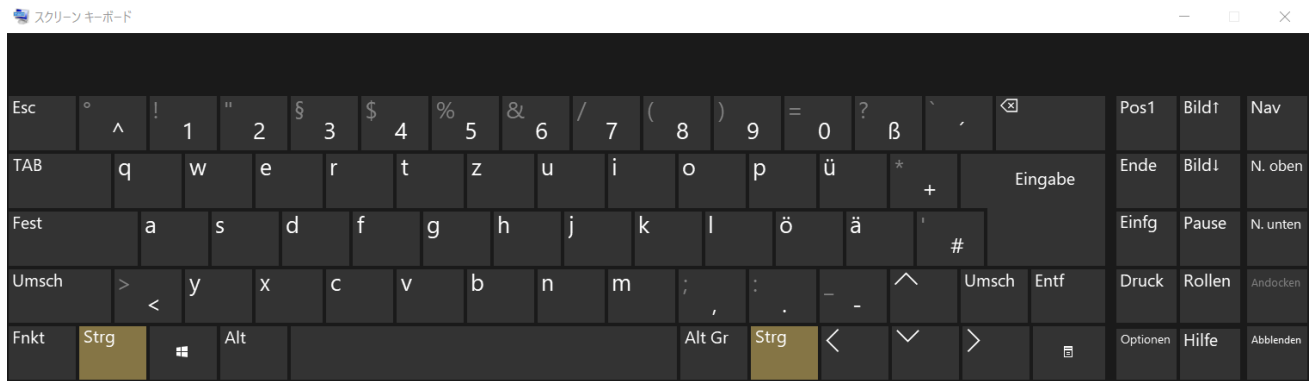
インストールする言語を選択してください



- すると、「言語機能のインストール」画面が現れるので、そのまま「インストール」をクリック。チェックボックスはデフォルトのままでよい。インストールには 10 分程度を必要とする模様。
- インストールが完了すると、タスクバー右のインジケータの言語アイコンをクリックしてキーボードをドイツ語キーボードに変換できるようになる。ショートカットキーは「Shift+左 Alt」。



- ・ドイツ語のキーボードは以下の通り。



通常（英語）のものとはほとんど同じだが、

- 「:」のキー → ä
- 「;」のキー → ö
- 「@」のキー → ü
- 「-」のキー → ß

に変化しており、

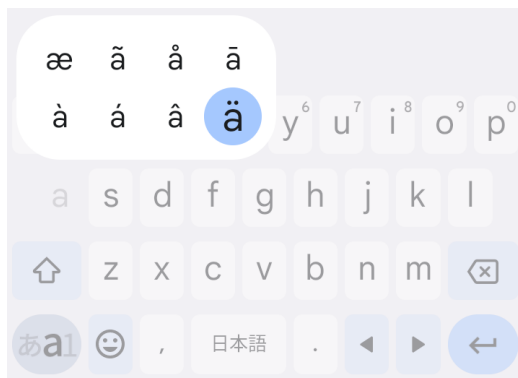
- 通常のキーボードとは y と z の位置が入れ替わっている

ことに注意。

* このスクリーンキーボードでは各キーの名称もドイツ語になっている（Enter → Eingabe など）が、機能としては普通のキーボードと同じだから普段通りに使えばよい。

- ・Windows 10 以前の Windows や Macintosh などその他の OS の場合、「OS 名 ドイツ語 キーボード」などを入力して Google 検索して調べるとよい。

◇ スマートフォンやタブレットの場合は、入力を英字に切り替え、a を長押しすると、ä をはじめとする各言語の a に関連する特殊文字が選択できる。ö は o で、ü は u で、ß は s で同じことをすればよい。



◇ ドイツ語の特殊文字がどうしても打てない状況の場合（タイプライターの時代など）、ä=ae、ö=oe、ü=ue、ß=ss での代用が可能とされていた。現在でもメールの文字化け対策などで使うことがある。もっとも、この授業中にパソコンで作成した答案を提出したりするときは、こちらの代替方法は使わず、必ずここで説明した打ち方を習得、使用してもらいたい。

* 今後、LETUS を通じて課題をオンラインで提出してもらう場合がある。そのときは、正しい方法でドイツ語の特殊文字を打ってほしい。これまで ß（エスツェット）を β（ベータ）で代用してくるような事例があったが、もちろんやめてもらいたい。

II 綴りと発音の関係

■ ドイツ語の発音の大原則 (S. 6)

名詞は語頭を大文字。

基本はローマ字読み（これから教科書 S. 6-7 で学習する規則以外）。

アクセントは原則として第一音節。

アクセントのある母音のあと、

- ・子音が 1 つならその母音は長母音。
- ・子音が 2 つなら短母音。

◇ ドイツ語では、綴りと発音はほぼ一対一対応すると考えてよい。

* 英語の場合、name や apple に含まれる各 a は、発音が異なる。ドイツ語では外来語を除いて基本的にこういった事態は生じないので、規則さえ覚えてしまえば初見の単語でも難なく発音できるメリットがある。

◇ まず、教科書 S. 6-7 で解説されている規則を覚えてもらいたい。これらに該当する綴りがあれば、それを適用する。それ以外のところでは、ローマ字読みにすればよい。

・ Name（名詞、「名前」）は、S. 6-7 の規則が当てはまらないので、すべてローマ字読みにする。その際、上記の大原則から、アクセントは第一音節、a のあと子音が 1 つなので a は長母音。

・ einmal（副詞、「一回」）は、ei に関しては S. 6 の規則「ei は[ai]と読む」が当てはまるので、それを適用して、それ以外の部分はローマ字読みとする。上記の大原則から、アクセントは第一音節、ei は二重母音だから長母音／短母音の別は考えなくてよい。

◇ 個別の規則は、教科書をベースに、本配付資料の以下の記述を補足として覚えてもらいたい。

■ 母音字の発音 (S. 6)

◇ a、e、i、o、u はローマ字読みでよい。aa、ee、oo のように母音字を 2 つ重ねると長母音になる。

* Bus は u のあとに子音 1 つだが、例外的に u は短母音で発音する。

◇ 特に注意が必要なのは、

綴り	発音
ä	[ɛ]（口を広く開けた「エ」）
ö	[ø]／[œ]（口を「オ」のかたちにして「エ」と発音する）
ü, y	[y]／[ʏ]（口をすぼめて「ユ」のように発音）
ei	[ai]（二重母音、「アイ」）
eu, äu	[ɔʏ]（二重母音、「オイ」に近い）
ie	[i:]（「イー」という長母音）
	[ie]（「イエ」に近い） * 実際には教科書の説明とはやや異なっており、外来語でなくとも[ie]になる場合もある。Ferien（休暇）など。
母音のあとの h	母音字を伸ばして長母音にせよ、という意味。

■ 子音字の発音 (S. 6-7)

◇ 子音字の発音のうち特に注意してもらいたいのは、**ch** と **r/er** と **sp/st** である。もちろん、ほかも覚えなければならないことには変わらない。

綴り	発音
b, d, g	語末、音節末、別の子音の直前では無声音 ([p]、[t]、[k])。 * Obst は o のあとに子音が 2 つだが、例外的に o は長母音で発音する。
	それ以外では有声音 ([b]、[d]、[g])。
ig	語末では[ɪç]（「イヒ」に近い、後述の ich などと同じ音）。
	あとに母音が続く場合は[ig]とローマ字読みする。Königin（女王）など。
ch	a、u、o、au のあとでは[x]（「喉の奥に挟まった小骨などを取ろうとしてとして一瞬だけ激しく息を吐き出すときの音」。わかりにくいので実演する）。
	それ以外では[ç]（「ヒ」に近い音、むろん母音は入らない）。
	ただし、 chs となると無条件で[ks]。
j	ヤ行の発音 ([j])。 * 要するに、発音記号の[j]はドイツ語の j と同じ発音である。
pf	[pf]の発音。
qu	[kv]の発音。謎の (?) [v]音が入ることに注意。 * bequem は第二音節にアクセント。前綴り be-はアクセントを持たないため。前綴りについてはのちに学習する。 (⇒教科書 S. 34) * * Qualität は第三音節にアクセント。-ät で終わる語は外来語なので、規則に従わない。
r	基本形は喉の奥を震わせる[r]（口蓋のふるえ音）。 * 水でうがいをするのを想定して発音するとよい。水で喉を潤わせて練習するのもよい。
	語末や母音のあとでは軽く母音化して[a]（「ア」）になることが多い。ihr（人称代名詞、所有代名詞）、Uhr（時計）、Irrtum（誤り）など。 * 正式には、この音には[v]という発音記号を使う。
er	[ea]（「エア」）に近い発音の場合。人称代名詞 er、定冠詞 der、形容詞 schwer（重い）など。アルファベートの R/r の名称も同様。 * 発音記号では[er]ないし[ɛ:r]と表記されるが、実際には[ea]と考えてよい。上に同じく、正式には[ev]。
	[a:]（「アー」）に近い発音の場合。上記以外の単語（Mutter など）のとき。 * 発音記号では[ər]のように表記されるが、実際には[a:]と考えてよい。上に同じく、正式には[v]。
s	母音の前では濁る有声音 ([z])。
	それ以外では濁らない無声音 ([s])。
ss, ß	必ず[s]。前述のように、使い分けに関してはのちに扱う。 (⇒教科書 S. 18)
sch	[ʃ]（「シ」に近いが、むろん母音はなし）の発音。英語の綴字 sh と同じ。
sp, st	基本的に語頭では[ʃp]や[ʃt]。
	それ以外では[sp]や[st]
	語頭でも外来語なら[sp]や[st]。Steak（ステーキ）など。 * これには例外もあるので注意。例外が登場した場合、その都度説明する。

綴り	発音
th, dt	単に[t]の発音。 * Theater は第二音節に、Theorie は第三音節にアクセント。th はほぼギリシャ語からの外来語に登場する綴りである。
ti	外来語の場合、[tsi]（「ツィ」）の音になることがある。 * Situation も Patient も最後の音節にアクセント。いずれも外来語のため。 ** ならない場合もあり。Demokratie など。
tsch	[ʧ]（「チ」に近いが、むろん母音はなし）の発音。英語の綴字 <i>ch</i> と同じ。
z, ds, ts, tz	どれも[tʰ]の発音。 * z が[z]の発音ではないことに注意。
v	基本的に[f]の発音。ただし、外来語では[v]のままのこともある。
w	[v]の発音。 * 以上、v が[v]ではなく、w が[w]ではないことに注意。ドイツ語には[w]の音、要するにワ行はない。
x	必ず[ks]の発音。英語のように濁ることはない。 * 英語の <i>examination</i> の <i>x</i> は濁るが、ドイツ語の <i>Examen</i> の <i>x</i> は濁らない（今は同じ）。

練習 1

授業第 1 回配付資料 S.7-8 の「1. 数詞」と「2. 挨拶」につき、今日の授業で学んだ綴りと発音の規則を念頭に置きながら、あらためて発音せよ。

1. eins 2. zwei 3. drei 4. vier 5. fünf 6. sechs 7. sieben 8. acht 9. neun 10. zehn
11. elf 12. zwölf 13. Guten Morgen! 14. Guten Tag! 15. Guten Abend! 16. Gute Nacht!
17. Auf Wiedersehen! 18. Tschüs! 19. Danke Schön! 20. Bitte Schön! 21. Wie geht es Ihnen?
22. Danke, gut.

練習 2

以下のドイツ語の単語を発音せよ。

1. Mann（男） 2. Wette（賭博） 3. Kino（映画館） 4. Gott（神） 5. du（君、英語の *you*）
6. Nähe（近く） 7. können（～できる、英語の *can*） 8. Glück（幸福） 9. liegen（横たわる）
10. nein（いいえ） 11. Euphonium（ユーフォニアム） 12. lieben（愛する） 13. halb（半分の）
14. Mond（月） 15. Krieg（戦争） 16. König（王） 17. Koch（コック） 18. echt（純粋な）
19. Achse（軸） 20. jung（若い） 21. Pfeil（矢） 22. Quelle（泉） 23. Reich（国）
24. Lektor（講師） 25. werden（なる、英語の *become*） 26. Lehrer（教師） 27. Sohn（息子）
28. Weisheit（知恵） 29. Fuß（足） 30. dass（英語の接続詞 *that*） 31. schon（すでに）
32. Spät（遅い） 33. Staat（国家） 34. Polizist（警察官） 35. Thema（テーマ）
36. Tschaikowski（チャイコフスキー） 37. Vetter（従兄弟） 38. Wald（森）
39. Xenophobie（排外主義） 40. zusammen（一緒に）

■ 参考：発音記号のまとめ

◇ 我々が使う教科書は、発音記号を習得済みのものとして扱っている。かつては高校英語で教えていたためであるが、現在では知らない受講生の方が多いと思われる。よって、ここで発音記号の最小限の読み方をまとめておくので、わからなくなったら見返してほしい。授業第 1 回ではドイツ語にカタカナで振り仮名をふったが、本来はよくないことであり、今後は発音記号に慣れてもらいたい。

◇ 発音記号は通常、大括弧[]のなかに書かれる。

◇ **母音**の発音記号は、

- ・ [a], [i]/[ɪ], [u]/[ʊ], [e], [o] : ローマ字読みでよい。
- ・ 以下、注意が必要なもの。

発音記号	発音方法
[ə]	[e]を弱く発音する。ただし、英語の[a]よりはっきり「エ」と聞こえる。
[ɛ]	[e]（要するに「エ」）に近いが、[e]よりも口の開きが大きい。
[ɔ]	[o]とほぼ同じと考えてよい。
[y]/[ʏ]	口をすぼめて「ユ」のように発音。英語でアルファベット u を読むときの音。
[ø]/[œ]	「口をオのかたちにしてエと発音する」と考える（これが最も難しい）。 * 日本語にカナ転写するときはエ段で書かれる場合が多い。Goethe が「ゲーテ」になるなど。
[aɪ] [ɔɪ] [aʊ]	いずれも 二重母音 。[aɪ]は「アイ」、 [ɔɪ]は「オイ」、 [aʊ]は「アウ」より「アオ」に近い。
[ː]	この発音記号がついている母音は、 長母音 にする。 * 例えば[aː]は「アー」と伸ばして発音する。

* 英語と異なり、ドイツ語ではフランス語由来の外来語についてはフランス語風の発音をするときがあり、発音記号もフランス語のものが使われる。特に鼻母音。授業でそうした単語が登場したとき、あらためて説明する。

◇ **子音**の発音記号は、

- ・ [p], [b], [t], [d], [k], [g], [m], [n], [l], [f], [v], [s], [z], [h] : ローマ字読みでよい。
- ・ [ɹ]の発音は英語と同じ。下記の[r]との区別気をつけること。
- ・ 以下、注意が必要なもの。

発音記号	発音方法
[ŋ]	いわゆる鼻濁音。英語の-ing のときと同じ。
[j]	ヤ行（ヤユヨ）。 * ジャ行（ジャジジュジェジョ）ではないことに注意。
[ʃ]	シャ行（シャシシュシェショ）。
[ts]	ツァ行（ツァツィツツェツォ）。
[tʃ]	チャ行（チャチチュチェチョ）。 * 以上は英語にも存在。ここからドイツ語ではじめて登場する発音記号を紹介す。重点的に覚えてほしい。
[pf]	敢えてカタカナ書きすると「プフ」だが、母音を入れずに一気に発音する。
[ç]	「ヒ」に近いが、もちろん母音は入れずに発音する。

発音記号	発音方法
[x]	喉の奥に挟まった小骨などを取ろうとしてとして一瞬だけ激しく息を吐き出すときの音（言葉での説明が難しいので、教室で実演してみる）。
[r]	「口蓋のふるえ音」（これも言葉での説明が難しいので、実演してみる）。 * 教科書では[r]で統一してある発音は、正式には、[r]（舌先のふるえ音）、[ʀ]（口蓋のふるえ音）、[ɾ]（舌先のはじき音）、[ʁ]（口蓋の摩擦音）の 4 種類に分かれている。現代ドイツ語では口蓋のふるえ音を用いるのが基本である（つまり、[r]と書かれている場合、実際には[ʀ]の発音を行う）。 ** [r]に関しては、なぜ発音記号なのに実際の発音と一対一対応しないのか、と不思議に思った人がいるかもしれない。その疑問は正当で、実際に音声学では上記のように 4 種類の別の発音記号を当てている。初級レベルのドイツ語では、面倒を避けるために便宜上すべて[r]としているだけである。

■ 参考：発音記号の分類

◇ 辞書の巻末などに乗っている音声学的な分類（一応掲載するが、こちらは覚えなくてもよい）。

・ 母音

舌	前後		前舌		中舌	奥舌
高低	開口度\唇の形		非円唇	円唇	非円唇	円唇
高	狭	閉 開	iː i	yː y		uː u
中高	半狭		ɪ	ʏ		ʊ
		閉 開	eː e	øː ø	ə	oː o
中低	半広		ɛː ɛ	œ		ɔ
低	広		a aː			

・ 子音

調音様式\調音位置	両唇音	唇歯音	歯～歯茎音	硬口蓋歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	口蓋垂音	声門音
障害音	無声破裂音	p		t			k	
	有声破裂音	b		d			g	
鳴音	鼻音	m		n			ŋ	
	側音			l				
	ふるえ音			r			ʀ	
	はじき音			ɾ			ɾ	
障害音	無声摩擦音		f	s	ʃ	ç	x	h
	有声摩擦音		v	z	(ʒ)	j	ʁ	
	無声破擦音		pf	ts	tʃ			
	有声破擦音				(dʒ)			

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>